

吉野復興大臣福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成29年12月9日(土) 17:10～17:07 於) 福島県郡山市)

1. 発言要旨

本日は福島県の大熊町、郡山市、須賀川市を訪問いたしました。

大熊町では、中間貯蔵施設を訪問し、除去された土壌の貯蔵作業や、フレコンバッグの受入れ、分別作業等を視察しました。施設の整備が順調に進んでおり、安全かつ着実に作業が進んでいることを実感しました。

郡山市では、双葉郡8か町村の小学校、中学生、そして、ふたば未来学園高校の子供たちの地域課題の探求の場である「第4回双葉郡ふるさと創造学サミット」に出席いたしました。

ここは、自分たちでまず課題を見付けて、調査をして、分析をして、そして、どういうものかという提言をしていく。課題を見付けることから自分たちグループでやっていて、今日はその発表の場を見させていただきました。

それぞれアイデアの多い提言を頂いたというふうに思います。これは、特に小学生の皆さんはずっと避難地で生活をしておりましたので、赤ちゃんの頃は住んでおりましたけど、ふるさとに住んだことや、ふるさとでの記憶はあまりないと思います。でも、ふるさとの勉強をすることによって、すばらしいふるさとがあるんだという意識付けにも、こういう事業は有効なのかなと、こう私は感じた次第です。

須賀川市に行きました。奥地建産株式会社を訪問いたしました。ここは地元の雇用、27人の社員のうち、工場長さんが地元以外で、あとは全員地元の方ということで、立地補助金を利用して進出してきたところですけど、地元の雇用に取り組んでいる姿を見させていただきました。

やっている仕事は太陽光の架台をつくっているところですけど、すごくオートメーション化されて、地元で雇用された方々も技術をマスターして、一人前になっている姿を見てきました。

最後に、郡山市でここサイバーダインを訪問しました。すごい身体装着用ロボットHALですけど、これは、体がなかなか動かない、諦めていた方々であっても、このHALを装着することで動けるようになる。そうすると、メンタル的なところも大いに変わって、いわゆる自立をしていこうという、そういうメンタルの構造をも変えることのできるすごい機械だな、このように感じたところです。

これからは大量生産して、多くの方々がこのHALを装着して、動かすことのできなかった体も動かして、それが自立につながる

という形で大いに期待をしているところです。

以上です。

2. 質疑応答

(問) ふるさと創造学サミットで、実際にふたば未来の高校生と直接お話、意見交換をされていたと思うんですけど、お話を聞いて大臣はどうお感じになりましたか。

(答) 高校生たちの発表の場は、ちょっと見られなかったんです。最後のところだけなので、本当にちょっとの間だけでした。

実は、私たち今、風評被害対策でリスクコミュニケーション戦略ということで、もうじき、来週辺りにその成果が出るんですけど、各省庁がやっている、風評被害タスクフォースというのがあ

るんです。
そこは、簡単に言うと、各省庁みんな、放射線と健康の影響に関するパンフレットをつくっているだけだったんです。そのパンフレットの中身をどう伝えるかというところをやっていなかったものですから、今度のリスキ戦略の中では、どう伝えていくかという、そういう答申が出ると思います。

それをふたば未来学園高校の皆さんは先取りをして、リスキの話じゃないんですけど、どう伝えていくかというコミュニケーションについて発表したという話を聞いて、私は今リスキも含めて、皆さんの提言を使えるなというようなお話もしたんです。

(問) 今回、太陽光パネルの製造をしている奥地建産と、サイバーダイインでは医療機器のロボットとか、その他、作業ロボットの研究開発をしているところを視察されたわけですが、これを復興につなげるという意味では、今、福島県としては、医療機器や再生エネに力を入れているわけですが、そういった点で、どのように期待していますか。

(答) 太陽光の架台をつくっている奥地建産さんは、正に福島県の再生エネルギーを本当に推進していく、それで、納めている先も、福島県が一番多かったですね。そういう意味では、福島県の再生エネルギーをつくっていかうという大きな方針に沿った会社だったなと、こう思います。

また、福島県は特に医療機器の集積を図っておりますので、サイバーダイインさんはある意味でリーダーシップをとっていただいて、研究開発を大いに進めて、また新しい医療機器をつくっていただきたいなと、こんなふうに考えています。

(以 上)